

患者の待ち時間は延長したのか

江原 朗
えはら あきら

はじめに

「世論調査の回答者中39%が医師不足を実感し、その66%が『診察の待ち時間が長くなった』と感じている」と毎日新聞(平成19年10月18日)は報じている。最近、

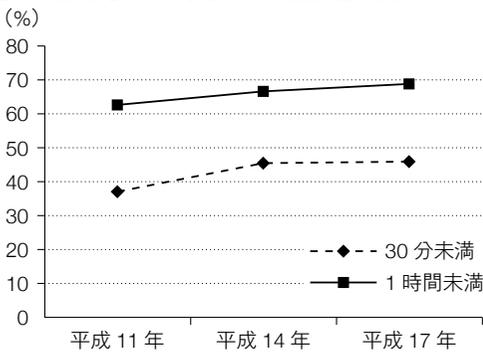
同様の記事が他紙においても散見される。しかし、医師数は年々増加している¹⁾。現在の医師不足が医師の偏在によるとしても²⁾、受診における利便性の低下が急速に増大しているとは考えにくい。

そこで、本稿では、患者の待ち時間の推移を解析することにした。

1 診療までの時間は短くなり、受診間隔が伸びている

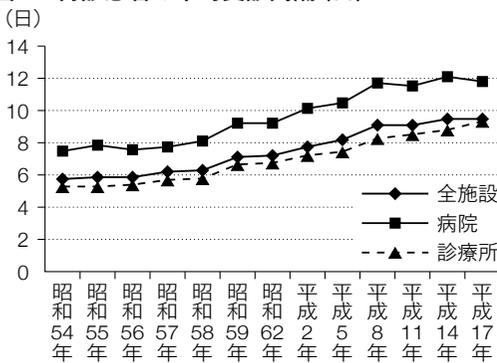
厚生労働省の受療行動調査³⁾による診療までの待ち時間を図1に示す。

図1 診療までの待ち時間(受診者の比率、%)



病院における診療までの待ち時間が30分未満である比率は、平成11年、14年、17年でそれぞれ37.2%、45.8%、46.2%と増加傾向にある。さらに、待ち時間が1時間未満の比率も62.4%、66.3%、68.1%と増加している。

図2 再診患者の平均受診間隔(日)



一方、患者調査⁴⁾によると、再来患者の平均診療間隔は年々伸びていた(図2)。

2 患者の待ち時間が伸びたとはいえない

病院での待ち時間は以前に比べて短くなっている。もちろん、自己負担率の上昇により受診数が減った可能性もある⁴⁾。しかし、予約制の導入などさまざまな工夫により待ち時間の短縮が図られたことは確かであろう。昨今の医師不足に関する記事で

は、地域から医師がいなくなったことや患者の利便性の低下が報じられている。受診行動に関する資料は最新版が平成17年のものであり、この2年で医療の流れが変わった可能性も否定できない。しかし、各論だけで日本の医療の方向を占うことは危険である。いたずらに住民の不安をあおることは慎むべきである。地域の医療体制をどう設計するのか。こうした問いには客観的な資料の解析が求められる。

(北海道大学大学院医学研究科
予防医学講座公衆衛生学分野
客員研究員)

文献

- 1) 厚生労働省統計情報部：医師歯科医師薬剤師調査，平成16年。
- 2) 厚生労働省医政局：医師の需給に関する検討会報告書(概要)，平成18年7月。 <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/07/dl/s0728-9b.pdf>
- 3) 厚生労働省統計情報部：受療行動調査，平成11年，14年，17年。
- 4) 厚生労働省統計情報部：患者調査，平成17年。